

今月号のお知らせ内容

①工事の進捗状況等

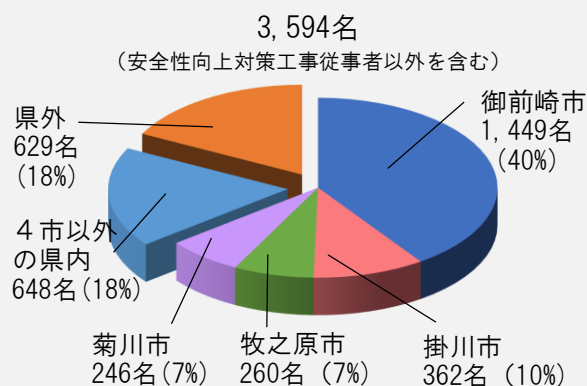
②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について

③日本経済団体連合会のご視察

④緊急時対応に関する力量向上（外部機関との連携）

⑤審査会合

浜岡原子力発電所従事者数（2月1日現在）



御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住
2,317名(64%)

※四捨五入により100%とならない場合があります。

①工事の進捗状況等

設備点検ヤードの整備

万が一、発電所敷地内へ津波が浸水した場合、屋外で点検・仮置中の機器や資機材が流されて安全上重要な設備の損傷や復旧作業に支障をきたす可能性があります。

そのため、機器や資機材の点検・仮置を安全上重要な設備から離れた場所で実施できるよう発電所東側に設備点検ヤードの整備を進めています。



設備点検ヤード整備場所



設備点検ヤード

②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について

第80回（1月29日）

点検および確認内容

重大事故環境に対する計装監視機能の強化工事、格納容器水素濃度監視強化対策工事および格納容器水位監視強化対策工事

静岡県からの講評

中部電力の計画どおりに進んでいることを確認した。今回の点検範囲は、重大事故発生時において格納容器内の状態を把握するために重要な設備となると認識した。引き続き安全管理の徹底をお願いする。

御前崎市からの講評

中部電力の計画どおりに進んでいることを確認した。今後も着実な対策工事により、発電所の安全性向上に努め、市民の安心・安全につなげてもらいたい。

次回の点検

2月26日

重大事故時に格納容器内の水位を測る機器（新設）



格納容器水位監視強化対策工事点検の様子

③日本経済団体連合会のご視察

2月14日、日本経済団体連合会（経団連）の中西会長を始め関係者約40名の方々が浜岡原子力発電所をご視察されました。

視察場所

- 安全対策工事（防波壁、ガスタービン発電機など）
- 原子力研修センター（シミュレータ紹介、失敗に学ぶ回廊など）
- 浜岡原子力館（防波壁模型など）

いただいた主なコメント

- 経済界として、いち早い再稼働に向け支援をしていければと考えている。
- 安全対策を迅速に対応されている。
- 子供のために、原子力という選択肢を残しておかなければならない。
- 経済界の皆さんに現場を見ていただくことは大きな意味がある。



防波壁ご視察の様子



原子力館内ご視察の様子

⑤審査会合

- 原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。
- 2月22日には、「地震・津波等に関する事項」について説明を実施し、引き続き審議することとなりました。

- 今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力してまいります。

④緊急時対応に関する力量向上（外部機関との連携）

御前崎海上保安署および御前崎市消防本部との連携訓練（1月28日）

原子力災害の発生防止・収束にあたって、体制・組織を充実させ訓練等を通じて要員の力量向上を図り、対応能力を強化しています。更なる対応能力強化を図るため外部機関との連携訓練等も進めています。

訓練の目的

原子力災害に備え、放射性物質による汚染を伴うけが人の海路による搬送訓練を通じて三者の連携を強化（陸路による搬送が困難であることを想定）

主な訓練内容



消防から海保へのけが人の引継ぎ（当社は放射線管理情報を伝達）



汚染を伴うけが人を巡視船へ搬入



搬送に携わった消防本部職員の汚染確認



巡視船への搬入時の汚染確認

<4号機の進捗状況> （2019年2月28日現在）

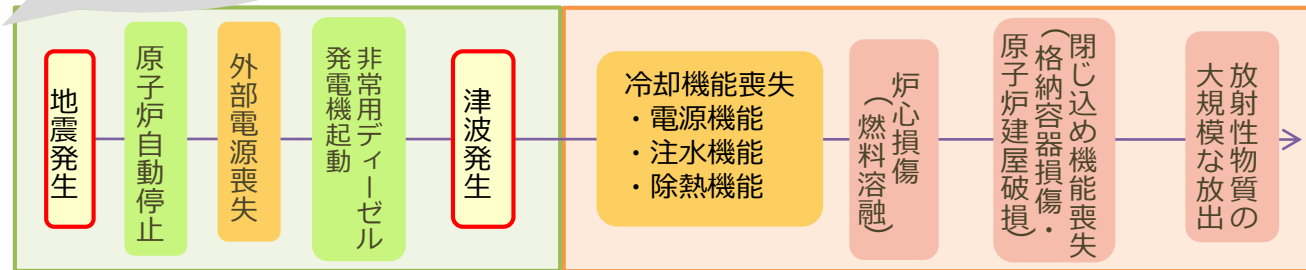
審査事項	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
審査会合の回数	共通：2回 33回	58回

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへご紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。

また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、
海拔22mの防波壁で敷地内への
浸水を防ぎます。

万が一、敷地内に浸水した場合でも強化
扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災
が発電所施設に燃え移らない
ように防火帯を設置します。



【主な重大事故等対処設備】冷やす機能を確認し、重大事故に至らないようにします。

また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

重大事故に至らせない

恒設

電源機能強化



ガスタービン発電機
高台40m地点から
電気を供給

注水機能強化



緊急時淡水貯槽
高台30m地点から
原子炉を冷やす水
を供給(7日間分)

除熱機能強化



緊急時海水取水設備
既設の海水取水ポンプ
が故障した場合に備え
同様な設備を設置

可搬



交流電源車
恒設の交流電源設備
が故障した場合に備
え配備



可搬型注水ポンプ車



可搬型取水ポンプ車

恒設の注水設備が故
障した場合に備え配
備

重大事故の発生に備える

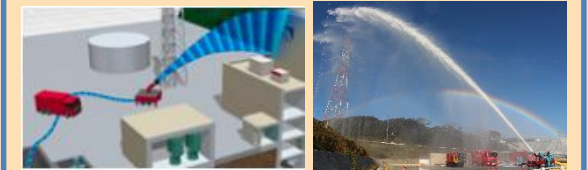
フィルタバント設備

格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放
出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通
し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑える
ことで避難の長期化を防止します。



放水砲設備

原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から
水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地
上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。



重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開
始に向けて増強しています。

24時間
365日体制

緊急時に特化した
幅広い対応力



役割
・戦略検討
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応
(現在17名)

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順
の追加や免許等の資格の取得を
おこなっています。



<取得免許例>
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に
対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手
順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を
2015年度から実施しています。

個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必
要な力量の向上に努めています。(年間約630回：2017年度実績)



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリング
ポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。
また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼
いただける発電所を目指してまいります。